

講義録レポート

講 座	証券アナリスト	科目①	経済	
目標年		科目②		
コース	1次秋試験向け 3科目横断実践セミナー	回 数	1	回
収録日	2015 年 5 月 20 日			
講師名	小川 先生	講義録 枚数	3	枚 ※レポート 含まず
		補助資料 枚数	3	枚 ※表紙含む
講義構成	講義 (30) 分			
使用教材	①			
	②			
	③			
	④			
配布物	有 . 無			
	①			
	②			
	③			
正誤表	有 . 無 枚			
備考				

証券アナリスト	講義録	コース・講義等	3科目横断 実践セミナー	科目	経済	回数	
---------	-----	---------	-----------------	----	----	----	--

配布物	★テスト類： []	講師	小川
	★その他の配布物1： []		
	★その他の配布物2： []		先生

黒板内容

1次経済秋セミナー

配点ウェイト

第1問	ミクロ経済	25%
第2問	金融経済	15%
第3問	マクロ経済	40%
第4問	国際金融	20%

証券アナリスト	講義録	コース・講義等	3科目横断 実践セミナー	科目	経済	回数	
---------	-----	---------	-----------------	----	----	----	--

配布物	★テスト類： []	講師	小川	先生
	★その他の配布物1： []			
	★その他の配布物2： []			

黒板内容

例題1. 2財モデル (X財、Y財)

財の価格変化の効果

代替効果

+

所得効果

= 総効果

実質所得 (= 名目所得 / 物価)

割高 $\Rightarrow$ 減少

割安 $\Rightarrow$ 増加

同方向に変化 $\Rightarrow$ 上級財

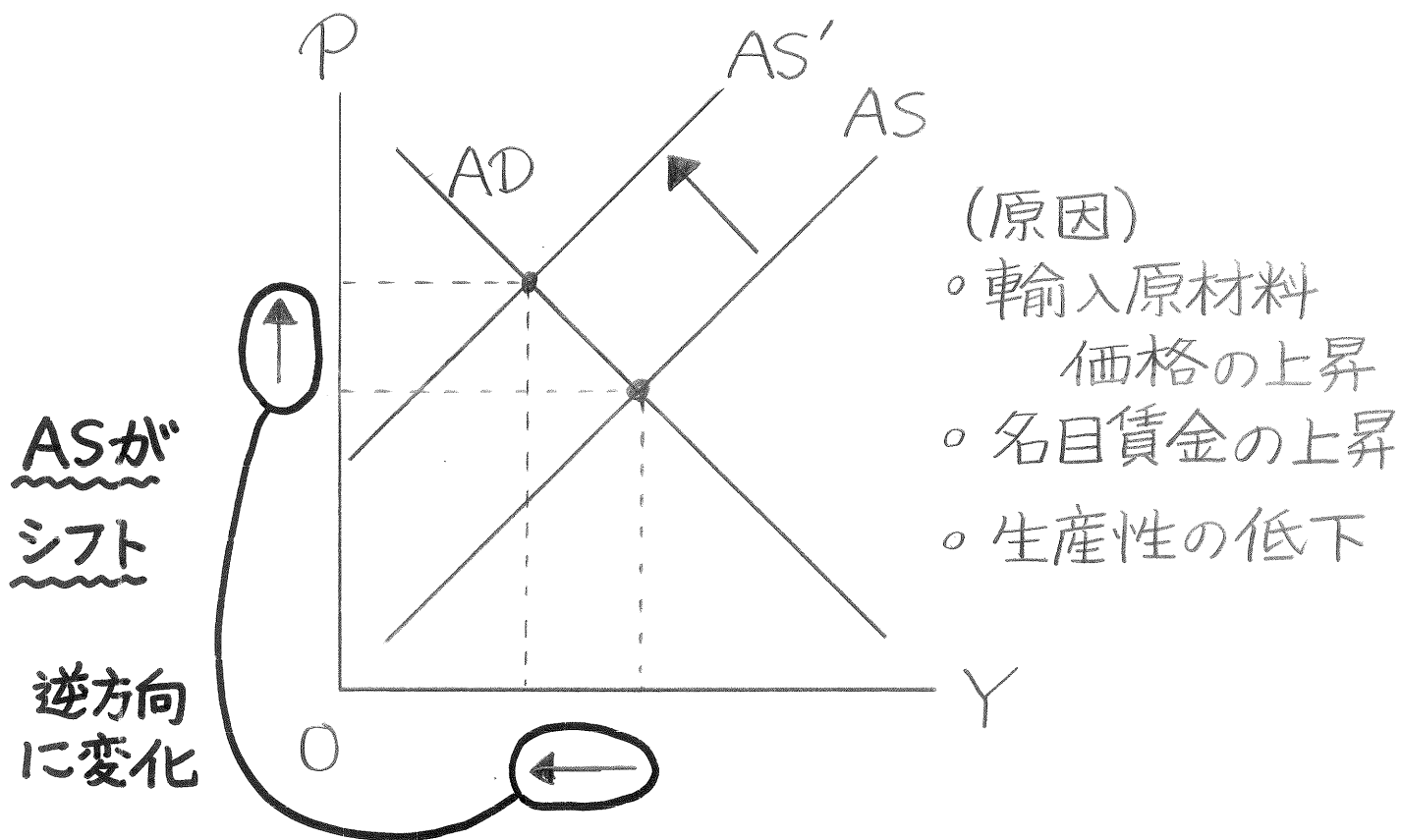
逆方向に変化 $\Rightarrow$ 下級財

証券アナリスト	講義録	コース・講義等	3科目横断 実践セミナー	科目	経済	回数	
---------	-----	---------	-----------------	----	----	----	--

配布物	★テスト類： [] ★その他の配布物1： [] ★その他の配布物2： []	講師	小川 先生
-----	--	----	-------

黒板内容

2. (補足) コスト・プッシュ・インフレーション



証券アナリスト1次試験 1次秋セミナー 経済

経済担当 小川

1. 試験の構成

- ・ 90 分、90 点満点、50 問程度。
- ・ すべて選択問題（文章の正誤問題 4 択、計算問題 5 択）。

配点ウェイト

第 1 問	ミクロ経済	25%
第 2 問	金融経済	15%
第 3 問	マクロ経済	40%
第 4 問	国際金融	20%

2. 各分野の主な内容

ミクロ経済	消費者行動、企業行動、完全競争市場、不完全競争（独占、寡占）とゲーム理論、市場の失敗、金融理論のミクロ的基礎 等
金融経済	金融取引、金融市場、資金循環、金融システム、金融政策、財政の機能と問題点 等
マクロ経済	国民経済計算（GDP）、財市場、貨幣市場、IS-LM 分析、AD-AS 分析、インフレーション、フィリップス曲線、経済成長と技術進歩 等
国際金融	国際収支統計、外国為替と為替レート、実質・実効為替レート、為替レート決定理論（購買力平価説、金利平価説、為替リスク）、為替市場介入、マクロ経済政策と為替レート 等

3. 試験対策のポイント

- ・ 大半が、ミクロ・マクロを中心とした経済学から出題される。
- ・ 計算問題は毎回 10 問程度出題される。
- ・ 経済学の基本的な仕組みをしっかりと確認しておく必要がある。

例題 本試験レベル

1. (ミクロ経済学)

2財 (X、Y) に関する消費選択問題を考える。X 財の価格下落によって生じる需要の変化に関する記述のうち、正しいものはどれか。なお、総効果は、代替効果と所得効果を合わせたものである。

- A X 財が下級財であれば、X 財需要への代替効果はマイナスである。
- B X 財が下級財であれば、X 財需要は総効果として必ず増加する。
- C X 財が上級財であれば、X 財需要は総効果として減少する場合がある。
- D Y 財が上級財であれば、Y 財需要は総効果として増加する場合がある。

2. (マクロ経済学)

実質 GDP (Y) を横軸、物価 (P) を縦軸にとった AD-AS モデルに関する次の記述のうち、正しくないものはどれですか。ただし、AD 曲線は右下がり、AS 曲線は右上がりを設定する。

- A AD 曲線は、IS-LM モデルから導かれる。
- B AD 曲線は、財政金融政策の実施、自国の輸出の増加等によって総需要が増加すると右にシフトする。
- C AD 曲線がシフトするときには、物価と GDP は逆方向に変化する。
- D 輸入原材料価格の上昇等によって発生するコスト・プッシュ・インフレーションでは、AS 曲線が左上にシフトする。

解答

1. 正解 D

代替効果は2財の価格比の変化（割高、割安）が各財の需要に与える効果をみるものである。X財の価格下落によって、X財は価格の変化していないY財と比べて割安となる（Y財は割高）。このとき、代替効果は（X財：増加、Y財：減少）となる。

一方、所得効果は、実質所得（＝名目所得／物価）の変化が各財の需要に与える効果である。いま、X財の価格下落によって物価は下落しているため、実質所得は増加している。実質所得が増加するときに（所得効果として）需要が増える財は上級財、需要が減少する財は下級財である。

最終的に（総効果として）、X財、Y財の需要が増加するかどうかは、各財に対する代替効果と所得効果の符号（プラス、マイナス）や大きさによって決まる。

- A 正しくない。X財が下級財であるかどうかは代替効果には関係しない。
- B 正しくない。X財が下級財であれば、所得効果は「減少」であり、代替効果の「増加」と逆になる。したがって、「X財需要は必ず増加する」とはいえない（所得効果が強ければ減少する場合もある）。
- C 正しくない。X財が上級財であれば、所得効果は「増加」となるため、代替効果の「増加」と合わせてX財需要は必ず増加する。
- D 正しい。Y財が上級財であれば、所得効果は「増加」となるため、代替効果「減少」との大小関係によっては、Y財需要は増加する場合も考えられる。

2. 正解 C

Cが正しくない。AD曲線がシフトするときには、物価とGDPは同じ方向に変化する。

